

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林業振興費

事業名 受託研究等実施事業費（森林総合教育センター）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林文化アカデミー 総務課 管理調整係 電話番号：0575-35-2525(内203)

E-mail : c21907@pref.gifu.lg.jp

1 事 業 費 2,489 千円 (前年度予算額： 2,489 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
前年度	2,489	0	0	0	0	0	2,489	0
要求額	2,489	0	0	0	0	0	2,489	0
決定額	0	0	0	0	0	0	0	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

・森林文化アカデミー開学時から、森林・林業とその分野に係る高度な知識、技術、施設等を要する問題解決の要請が多く、本学がその社会的要請に応えるためには実費を要請者側に負担してもらい取り組む受託の仕組みが必要であり、これまでも実施してきた。

・令和2年度に開所した森林総合教育センター(morinos)においても、森林教育の分野における高度な知識、技術、施設等を要する指導者の育成、企業研修等、問題解決の要請に応える必要がある。

(2) 事業内容

森林総合教育センターにおいて、森林教育分野の地域や社会が抱える問題について、地方自治体、団体、企業等からの委託（有料）により研究調査等を行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

委託者負担

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報酬	60	プログラム実施に係るアシスタント
旅費	363	プログラム実施に係る費用弁償
需用費	993	プログラム実施に係る消耗品費：946、印刷製本費：22、燃料費25
役務費	6	通信運搬費
報償費	678	外部講師
使用料	389	プログラム実施にかかる使用料
合計	2,489	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第四期岐阜県森林づくり基本計画（令和4～8年度）

第7章 施策展開の全体像

3 人づくり及び仕組みづくりの推進 (1)木育・森林環境教育の推進

(2) 国・他県の状況

県として、1日から複数年まで様々なスタイルで学ぶことができる森林総合教育センターは全国初。

(3) 後年度の財政負担

森林・林業分野の教育・研修を行う中核機関として県民に認知されてきており、その役割は林業界の人材育成を通じた健全な森林の造成、県民の生活環境の維持増進に及ぶなど、引き続き県の関与が強く求められる分野である。

このため、今後も県費による事業を実施する。

(4) 事業主体及びその妥当性

事業主体：県

森林文化アカデミーの運営にかかる附帯教育事業であるため、県が事業主体であることが妥当。

事 業 評 価 調 書 (県単独補助金除く)

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

実費による受託事業により、地方自治体、団体、企業等からの森林教育に関する分野に係る高度な知識、技術、施設等を要する問題解決の要請にこたえる。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

事業実施（案件）自体が依頼者から森林総合教育センターへの依頼に基づくものであり、指標化は困難。

(これまでの取組内容と成果)

令和 4 年 度	1 団体実施
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和 5 年 度	1 団体実施
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和 6 年 度	無し
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 2	・アカデミーの基本理念の一つである「教育・研究活動を通じ、地域の活性化を目指していく」に合致している。 ・森林総合教育センター(morinos)のコンセプトである「すべての人と森をつなぎ、森と暮らす楽しさと森林文化の豊かさを次世代に伝えていく」に合致している。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	森林体験を主とした企業の新入社員研修を令和4年度及び令和5年度に各1団体実施し、新入社員の組織での協調性等を高めるとともに森林への理解を深めることができた。※令和6年度は本事業による実施無し
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	必要経費分は企業から委託費を徴収して実施。 また、外部講師を活用し、内部負担を軽減した。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

森林教育に関する多様なニーズに対応できる受け入れ体制を整備する必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

受託研究等は、地域の森林教育の推進につながることから、森林総合教育センターの通常業務に支障のない範囲で積極的に推進する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	